

平成19年度 事務事業評価表	担当	消防本部	消防署	内線等	99-1005
事務事業名	救助訓練活動事業			事業コード	5. 義務的事業
根拠法令等	消防法・消防組織法			A法令	

総合計画での位置付け

基本目標	3. 健康で安心して暮らせるまちづくり	施策名	消防・救急
------	---------------------	-----	-------

事務事業の内容

対象（受益者）	消防職員を対象に
手 段	市民の生命身体を災害から守るための救助訓練を行うことにより
想定する成果	救助活動を行う上に役立つ技術の向上、維持を図る

事業の概要

項 目	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画
救助訓練対象職員	75人	77人	77人
消防職員数	103人	105人	104人

成果指標

成果指標名	救助訓練に従事する職員数
成果指標の説明	救助訓練対象職員数 / 消防職員数 × 100

事業の進捗状況 (一般 会計) (単位：千円)

		平成18年度決算（実績）				平成19年度決算（実績）				平成20年度予算（計画）			
成果指標		72.82%				73.33%				74.04%			
成果指標													
事業費	事業費	110				132				133			
	人件費	16,346				16,401				16,475			
	(人数)	正規	2.1	非常勤		正規	2.1	非常勤		正規	2.1	非常勤	
	合計	16,456				16,533				16,608			
財源内訳	国												
	県												
	市債												
	その他												
	一般財源	16,456				16,533				16,608			

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	19評価	16評価	19評価	16評価	
達成度	2	2	2	2	ほぼ目標どおり進捗しており成果はやや高い水準にある
経済効率性	2	2	2	2	救助訓練も見合った成果をあげている
事務効率性	2	2	2	2	救助訓練がほぼ計画どおり実施されている
必要性	-	2	-	3	義務的事業
小計	6	8	6	9	
施策への貢献度	2	-	2	-	おおよそ成果を表すことが出来ている。
合計	8	8	8	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	災害に対し、高度な能力を必要とする事業である。
------	---	---	---	---	-------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

前回(H16評価時)「今後改善すべき点」として記載した内容及びその実施状況

前回(H16評価時に)記載した「今後改善すべき点」
救助隊は蒲郡市にもあります。でも他の市町村のようにオレンジ色のレンジャー服を着ることが認められませんでした。災害現場で活動するのに大変危険であるとの声が多く職員から持ち上がり、これからはレンジャー服の着用が認められました。
上記改善点の実施状況
被服等の支給品を点数性としてその中に、レンジャー服を項目に入れて職員が希望をすれば各個人の持ち点数の中で支給されるように改善された。

今後さらに改善すべき点

救助資機材の要望をより多くしていきたい。

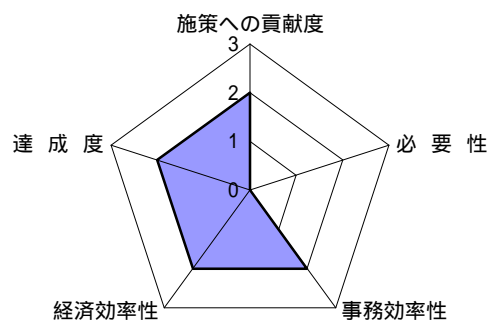
平成21年度予算に反映する項目

硫化水素ガス事案に対応するため、測定器の予算計上
都市型救助資機材の要望

今後の方向性

現状維持

内部管理事務事業、義務的事業は必要性を、また施策名がその他のものは施策への貢献度を評価していません。



課内評価と部長評価の平均点

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】